

市民に愛される「習志野高等学校」を目指して

今年度4月に赴任いたしました岩波 永です。
本校26期生です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年で創立64年目を迎える本校の同窓生の数は、
23,000名余りにのぼり、千葉県内はもちろん全国
でも同窓生が活躍しています。

新型コロナウイルス感染症の猛威により、日々状況
がめまぐるしく変化していく中、今までに経験したことない放送での始業式、新入生・
保護者の皆様がマスクを着用しての入学式を行い、地元習志野市はもちろん、千葉県
全域から320名の新入生を迎え、全校生徒956名で今年度スタートいたしました。



習志野高校を語る上で欠かせない偉大な方がお二人いらっしゃいます。

昭和29年（1954年）、千葉県下16番目の市として誕生したここ習志野市の
初代市長であります白鳥義三郎しらとりぎさぶろう氏です。昭和32年（1957年）に県下2番目の市立
高校としての創設にご尽力されました。

当時、市立高校の創設にあたって、白鳥義三郎氏は、「今、市では、二つの大きな
仕事にとりかかっています。天然ガスの試掘と市立高校の設置であります。地下資源の
開発は習志野市の経済的発展の大きな土台となるべき重要な仕事であり、高校の創立
は、それこそ次代を背負う立派な人材を育て上げる大事な事業です。それぞれ一億円前
後の巨費を要しますので、現在の習志野市としては、むしろ分にすぎた事業と思いま
すが、明治維新後、越後長岡藩の米百俵の話もあり、是非これは完成いたしたいと存じま
す。」この強い思いがなければこの習志野高校の誕生はありませんでした。

もうひとつ方は、この習志野高校のあゆみを決めたと言っても過言ではない、初代校長
であります山口久太やまぐちひさた先生（昭和31年12月～42年度）です。習志野高校新聞創刊
号で山口先生は、「私の決意にこたえるごとくして習高創業という、正に理想的な、
天与の職業が与えられた。私は感激している。私は本当に感激してやっている。私とと
もにある先生方も、この習高教育に、情熱を捧げ尽くしている。～中略～ 今日この
習志野の花薫る丘々にうつぼつとして、うつぼつとして、雲波がわいている。教師諸君
よ、生徒諸君よ、さあ前進だ。」

こうして、文武両道を目指す習志野高校の特色を標榜する「習志野の王冠たれ」「雑草
の如く逞しく」という思いが、今日に至るまで生徒や市民の皆さんに語り継がれ、今日
の伝統と伝説が築かれていくこととなりました。

こうした中、多くの先輩方の背中を追いかけ在校生は、それぞれの目標に向かって
「文」と「武」に日々励んでいます。

このホームページをご覧いただいている皆さま方の、本校教育に対する一層のご理解
とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます、また、中学生や保護者の皆様には、
是非一度、本校に足をお運びいただき、活気に満ち溢れ、生徒が生き生きと活動して
いる学校の様子をご覧ください。

習志野市立習志野高等学校
校長 岩波 永